



東北大学

ISSN 0385-7506 Vol. 34, No. 1 2009



東北大学附属図書館報 木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>

ー木這子（きばこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）ー

目 次

○図書館と書籍の電子化	1
○工学分館長に就任して	4
○フグ毒の謎へのアプローチ	6
○平成 20 年度東北大学附属図書館・宮城県図書館 合同企画展「はっぴい さんぼうー和算の世界へ ようこそ」から	8
○シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その 1 探訪！医学分館	13
○平成 20 年度参考図書購入報告	20
○平成 20 年度特別図書購入報告	21
○平成 21 年度新入生向けオリエンテーション 等の開催	22

○『東北大学生のための情報探索の基礎知識』 基本編 2009、英語版 2009 を刊行	22
○平成 21 年度目録システム地域講習会（図書コ ース）開催	23
○平成 21 年度目録システム地域講習会（図書コ ース）を受講して	24
○職員研修『出張・研修報告会』、『新人研修』を 開催	24
○附属図書館商議会商議員名簿	25
○会議	26
○人事異動	27
○編集後記	29

図書館と書籍の電子化

北青葉山分館長 佐藤 春夫



高木泉先生
の後任として、
4 月 1 日付け
で附属図書館
北青葉山分館
長を拝命いた

しました。昨年度は商議員として附属図書館の
運営に関わってきましたが、この経験を生かし、
専門図書館としての資料情報提供機能の充実と
利便性の改善に努力して行きたいと存じます。

私の専門は地球物理学で、主に固体地球の不
均質構造を伝わる地震波の伝播と地震発生の仕
組みを研究してきました。短周期の地震波は、
不均質構造の短波長成分によって強く散乱され、
伝播距離が大きくなるに従って崩れて行きます。
ランダムな不均質構造とその中を伝播する地震
波動を統計的に記述することにより、短周期地
震波の振幅エンベロープ形状の伝播距離と周波
数への依存性から速度不均質のスペクトルを推
定することが可能となります。私たちはこのよ

うなアプローチに基づいて数理モデルを構築すると共に、観測された地震波形の解析から、本州の火山フロント及び背弧側では太平洋プレートが沈み込む前弧側に比べて波形の崩れ方が激しいことを明らかにしてきました。東北地方における詳細な解析からは、波線が第四紀の火山の下を通る場合に地震波形の崩れ方は特に激しく、そこではランダムな不均質が大きいという新しい知見が得られています。この方法は、地震波の伝播過程の解明に限らず、地震断層面のどこから短周期の地震動エネルギーが輻射されるのかといった破壊過程の解明のための新しい解析法としても定着しつつあります。

思い起こせば、学生時代、新設の研究機関に就職した頃、そして東北大学に赴任してからと、それぞれの時期に図書と学術雑誌は無くてはならないものでした。大学に入学したときには図書館の膨大な蔵書に感激し、知の集積に圧倒されたことを覚えています。借り出した書籍を積み上げてレポートを書くとき、大学生になったのだという充実感を強く感じたものでした。大学院では物理学を専攻しておりましたので、1974年に科学技術庁の研究機関（現在の（独）防災科学技術研究所）に職を得てから、初めて地震学の分野に入ったことになります。そこで配属されたのは、差し迫った東海地震に備える為の地震観測網を整備するプロジェクトでした。新設の研究所以ったため、プロジェクトを進めるための研究資金は潤沢にあったものの、そのほとんどは観測機器とデータ収集解析のためのハードウェアと工事役務とに費やされていきました。図書と学術雑誌が未整備なことは、分野替えをしたばかりの私にはとても困ったことでした。それでも当時は研究所が東京にあった為、東大・地震研究所の図書室に通うことで多くの文献を読むことができたのは幸いでした。既にこの時期、大学の図書館は学外者にも開かれて

おり、そのことに深く感謝したものです。しかし論文を「読む」ことはできても、学外者には論文を「コピー」する手段がありませんでした。1970年代の末頃だったと思いますが、地震研の図書室に学外者用のコピー機が初めて設置された時、とても嬉しかったことを覚えています。所属する研究所では、筑波移転をきっかけとして学術誌の定期購読にも予算を振り向けることができるようになり、研究資料情報に関する環境は徐々に整備されるようになりましたが、時代をさかのぼってバックナンバーを整備するのは容易なことではありませんでした。その意味で、1990年に東北大学へ赴任した時には、充実した学術誌のバックナンバーの存在に感激したものです。それまで読むことができなかった旧ソ連の雑誌を発見した時の喜びは忘れられません。

この間、1981年にマサチューセッツ工科大学に留学しましたが、地球物理学教室の図書室が海外からの博士論文の依頼にすべてコピー送付で対応していたことには感心いたしました。しかし、図書館は貸出図書の返却が滞るのに手を焼いていたようで、返却遅延に一日何セントといった罰金を課していたことが印象に残っています。

数年前に、共同研究でドイツのライプチヒ大学を訪問する機会がありました。滞在した地球科学教室では、書籍を新旧で分け、19世紀以前の書籍を壁一面に収納した部屋を客員教授室に供していたのです。古風ですが格調の高い装幀の書籍に囲まれた居室は、すばらしい書斎でした。これらの書籍を眺めていると、「本を執筆する、編纂する、保存する」ということの意義と重さがひしひしと感じられ、学術書の編纂に強い熱意を持って取り組む人々の気持ちが伝わってきたものです。

昨年、友人と10年前に執筆した地震波の散乱

に関する書籍の第2刷を欧州のS社から、地球の不均質構造と地震波動に関する最近の研究を編纂した書籍をE社から出版しました。この執筆と編集作業をする中で、この10年間に出版の形態が大きく変わったことを改めて認識することになりました。以前は出版社の編集担当者が細部まで目を通して作図や文章の修正指示を版組直前まで出していたのですが、本の作成が完全に電子ファイルを用いた作業になったことで、ほとんどが執筆者だけの作業となってきたのです。出版社の担当者とのやりとりは執筆時の楽しみの一つであったのですが、その過程が格段と減ったように思いました。インターネットの恩恵を享受しているために国際分業が盛んですが、2社とも、書籍の最終的な版組作業を欧州から離れたインドの会社へ委託するようになっています。出版業界では国際的な寡占化が急速に進んでおり、優れた学術書を刊行することで評判の高かったいくつかの出版社がこの10年の間に少数の大手の出版社に買収されていたことも大きな変化の一つです。

理工系分野の図書館は、手にとって読む冊子体の書籍の提供からインターネットを用いた電子媒体の提供へと、急速にその重点を移しています。しかし、学術雑誌の場合、研究者が論文の執筆と編集責任のほとんどの作業をボランティアとして担っていることを考えると、現在の購読契約料の高騰は納得できるものではありません。本学の附属図書館では数多くの学術誌を購読契約しており、優れた研究環境を提供できていると思いますが、すべての大学や研究機関

で電子媒体の学術誌の閲覧体制が整っているわけではありません。東北大学を巣立った若い研究者たちからも、学術情報の入手に関しての格差が大きな問題として指摘されています。これに関して、大学図書館の蔵書の相互利用が紙媒体交換のみに限定されていることは困ったことです。日本だけに限ったことではありませんが、学術情報に関する環境に大きな格差があることは、教育と研究の長期的な衰退につながります。この春にインドの大学を訪問した時のことですが、資金不足のために最先端の学術雑誌の購読ができないことが教育と研究遂行の上で大きな障害になっていると、友人は嘆いていました。学術誌の電子化が出版業界のビジネスモデルとしてかなりの成功を収めていることは認識していますが、執筆と編集責任のほとんどを研究者がボランティアとして担っていること、そして教育と研究の重要な柱であることを考えれば、学術雑誌はもっと公共財産的な位置づけがなされても良いはずでしょう。電子媒体の利用形態についても、このような観点からの改革が必要と思われます。

(さとう はるお)



工学分館長に就任して

工学分館長 吉野 博



1. はじめに

平成 21 年 4 月から阿曾弘具先生の後任として工学分館長を拝命いたしました。図書館としての快適な施設・室内環境を維持し、また適切な学術情報・学習支援のサービスを充実

することによって、工学分館が青葉山東キャンパスの教職員や学生を中心として積極的に利用されるように、最大限の努力をするつもりでありますので、よろしくお願いします。

吉野は都市・建築学専攻に所属しており、専門は建築環境工学です。目的は安全で快適な室内・屋外の環境を、効率のよい施設・設備の計画に基づいて実現することであり、その方法に関して研究・教育をしています。研究分野は、サステナブル環境構成学といいます。地球環境時代にあって、温暖化防止の観点から化石エネルギーの使用をできる限り抑えつつ、快適で健康な建築環境を実現していくということが大きな課題です。例えば、断熱や気密性の条件、設備の使い方、室内の環境条件によって使用されるエネルギーがどのくらい異なるか、或いは、自然エネルギー利用技術を導入した場合の効果などについて研究しています。

図書館との関連で言えば、閲覧室、自習室、事務室などそれぞれの機能に応じた快適な光、音、温熱環境、或いは図書の保存のための適切な温湿度環境を、最小のエネルギーで実現するためにはどうすればよいかが課題となります。そのような観点から専門分野の知識を生かして分館の環境整備を進めたいと考えています。

また、図書館の機能は近年、大幅に変わりつつ

あります。これまでは研究支援が中心だったのに対し、学習・教育支援機能の充実という点が、要求されてきております。その背景としては、情報の電子化が挙げられます。定期刊行物としての学術図書は電子ジャーナルに変わってきており、図書館に行かなくても研究室に必要な文献が入手できるようになってきたということです。また、井上プラン 2007(2009 年度改定版)では、「キャンパス環境の整備」の中で、三つの柱の一つが「大学運営の基盤となる情報通信・メディアの整備」となっており、その中で「学術情報拠点としての図書館機能の改善」が謳われています。

そこで本稿では、施設整備の計画を紹介するとともに図書館機能の変化に対応した様々な取り組みの一端を述べたいと思います。

2. 分館における施設整備

施設整備に関しましては、これまでも各種の要求に対応して改善を行って来ましたが、今後の予定と計画を簡単にまとめます。今年度は以下の環境整備が決定されています。

- ・旧館 2 階閲覧室の窓への網戸の設置：6 月末に完成予定。
 - ・身障者対応として 3 階までのエレベータを設置。また、玄関出入付近の階段にスロープを設置。
 - ・屋上に太陽光発電設備を設置。最大発電能力 30kW。照明用電力として利用。
- また、予算の要求を行っている施設整備としては、
- ・無線 LAN 設備の設置。館内でパソコンをネットにつなげるようにする。これは、図書館での学生アンケート結果に基づいています。
 - ・1 階パソコンコーナーのパソコンの残り 7 台を更新。
 - ・1 階パソコンコーナーのパソコンの残り 4 台に MS Office を導入。

- ・自動貸出装置を更新。
- ・閲覧室に防犯カメラを設置。

その他の施設整備計画は以下のとおりです。

・閲覧室の照度改善。これは利用者アンケート、及び外部評価の指摘事項です。実際に照度を測定しましたが、確かに暗い環境となっていますので、優先的に取り組みたいと考えています。

・閲覧室等の湿気調査。現在測定を実施しています（6/1～）。

以上のような施設整備を進めていますので、ご理解いただければ幸いです。

3. 図書館のサービス機能の充実にむけた取り組み

（1）情報教育支援の取り組み

近年、電子化された資料が増大し、またインターネット技術の進展により、図書館が扱う学術情報は、所蔵している印刷物だけではなく、電子化されてインターネットで提供されるものや、始めからデジタルで生産されるようなネット情報などへと拡大しています。学術情報の媒体が多様化することによって、それらを探す方法も多様化しています。特にデジタル化の進展によって、情報を扱うためのスキルを利用者へ伝えることがより重要になりました。そこで、工学分館では、様々な課題の中で、予算を伴わない情報教育支援活動を特に重点的に行ってきております。これは2005年ごろから本格的に実施してきていますが、下記の通りです。

2005 年度

- ・「上手なレポートの作り方、上手な文献の探し方」講習会 6回

2006 年度

- ・「上手なレポートの作り方、上手な文献の探し方」講習会 22回
- ・「理工系秘書向け」講習会 2回

2007 年度

- ・「上手な文献の探し方」講習 19回
- ・「理工系秘書向け」講習会 15回

2008 年度

- ・北青葉山分館と合同で、文献の探し方などの学生向け講習 66回（北青葉山分館会場含む）
- ・教職員秘書向け講習会 19回
- ・オンデマンド型講習会 3研究室
- ・留学生向け講習会（工学研究科国際交流室と共催） 2回

2009 年度

- ・学生向け講習会 28回（北青葉山分館会場含む）
- ・学生向け特別講習会（特許情報検索、産学連携本部知的財産本部と共催） 1回
- ・オンデマンド型講習会 5回（予定）（6/19 現在）

今後の予定（7月以降）は以下の通りです。

- ・ホームページ改定
- ・授業連携講習会の検討
- ・学生向け講習会（レギュラー）※10月から
- ・学生向け特許講習会 ※10月以降
- ・留学生向け講習会 ※10月以降
- ・図書館アピールデー ※10月以降

（2）学習支援に対する取り組み

研究室に席のない学部学生に対して勉学に励んでもらう環境を整えるということが重要な役割となってきています。このことは、以前から言われていましたが、先に述べた井上プランの中でも「快適な自学自習の場の提供を図る必要がある」とされており、その方向性が強まっていると考えています。そこで、工学分館では具体的に以下のような対応を進めてきました。

- ・学習用図書の充実のため、シラバス図書を重点的に購入
- ・パソコンの更新・利用時間の延長
- ・照明の改善計画
- ・エントランスホールの快適化計画

- ・時間外利用枠の拡大
- ・外国語論文の探し方講習会実施
- ・レポート作成の基本に関する講習会実施

(3) その他のサービス機能の充実

昨年の7月～9月には、「工学部の歴史に関する展示」及び「学生生活に関する展示」を行ってきました。本年度は、情報発信機能を充実させるために、エントランスホールでの研究の紹介用パネル展示を行う予定であり、工学系研究室の活動紹介などを計画しています。

4. おわりに

4月に分館長となり附属図書館の職員の方々から様々な情報を頂いていますが、分館の機能が大幅に変わってきていることに驚きました。、そ

してまた職員の方々が、その機能の変化に対応して、学生に対するサービス機能の充実に向けた各種の取り組みを進めているということに感心しました。教職員の皆様方には、学生にとって意義のある講習会や学習支援サービスを行っていただきますようにお願いします。

(よしの ひろし)



フグ毒の謎へのアプローチ

農学分館長 山下 まり



歴史的にフグを好んで食べる習慣があるためか、フグ毒は日本人にはよく知られた自然毒です。現在でも、フグは高級食材として好まれて

います。しかし、食中毒の原因となる自然毒としては、キノコと並んで最も怖い毒であると言えます。最近では、今年の1月下旬に山形県鶴岡市において、また、同2月上旬に大分県由布市で中毒が発生したことが、連続して報じられました。その原因毒であるテトロドトキシンは、神経や心筋、骨格筋などの細胞膜に主に存在し、神経情報伝達を担う電位依存性ナトリウムチャンネルに結合して、ナトリウムイオンの細胞内流入を阻害するこ

とで毒性を発揮します。その結果、神経情報が伝わらなくなり麻痺がおこります。一方、フグ毒の強力で特異性の高いこの生理作用は、ナトリウムチャンネルの研究試薬としてよく用いられています。ごく最近、フグ毒と同じ作用をする麻痺性貝毒をリポソーム（脂質の膜で包んだ粒子）にすることにより、局所麻酔薬へ応用できる可能性が報告されました。毒ではありますが、役に立つ面もあるテトロドトキシンは、化学的にも興味深い分子です。窒素、酸素を多く含む分子量319の小さな分子で、大変変わった化学構造を持っています。その化学構造は、1964年に平田・後藤ら、津田ら、Woodwardの3つの競合したグループにより同時に報告され、日本の天然物化学研究における輝かしい功績としてよく知られています。また、テトロドトキシンは、多くの類縁体の混合物としてフグ

体内に存在します。私共は、微量類縁体の単離と構造決定や微量分析法の開発、さらに、生化学的な研究にも関与してきました。

フグ毒は、海洋ではカニ、カイ、ヒトデ、タコ、ヒラムシ(扁形動物)などから、陸上ではイモリ、カエルから同定され、広く生物界に分布します。しかし、どんな化合物が材料になって、この分子が作り出されるのかはまだ明らかになっていません。フグ自身はフグ毒をつくらないことは確かなようです。実際、人工孵化させたフグを無毒の餌で飼育すると、無毒のままであることが報告されています。また、有毒な餌を与えると毒を持つようになるので、毒を蓄積する能力をもつと考えられます。実際、私共や他のグループは、フグの血漿中にフグ毒や麻痺性貝毒を結合する蛋白質を見つけました。この蛋白質は、異物を体外に排出する蛋白質とアミノ酸の配列が類似していました。フグにとって、毒はやはり異物なのでしょう。

海洋微生物がフグ毒をつくることは証明されましたが、人工培養により長期間高い毒生産能を示す微生物は、今のところありません。これは危険性から考えれば幸いなことですが、研究面では多岐に問題で、フグ毒がどんな化合物から生物体内で合成されるのか、という基本的なことがいつまでも解決できないでいます。私共にとって、その問題を解決することが研究上の大きな課題です。

私共は、フグがなぜ自分の毒で死なないのか、という研究も行ってきました。ヒガンフグの骨格筋及び脳の膜画分は、ラットと比べて毒が大変結

合しにくいことがわかりました。これはフグ毒が作用する蛋白質である、ナトリウムチャンネルの違いによるのではないかと考え、10年前になりますが、ヒガンフグ骨格筋のナトリウムチャンネルのcDNAをクローニングし、他のナトリウムチャンネルと比較しました。ナトリウムチャンネルには現在、9-10個の少しずつ異なる型が知られていて、脳、脊椎、心筋、骨格筋など、発現する場所も多様です。ヒトやラットなどの心筋のナトリウムチャンネルには、フグ毒が作用しないことが報告されていました。これは、フグ毒が結合する部分のアミノ酸がたった1つ変化しているために、耐性になっていることが解明されていました。私共は、ヒガンフグ骨格筋のナトリウムチャンネルでは、ヒト心筋と同じ位置のアミノ酸にフグ毒耐性型の変異があることを明らかにしました。フグ毒を大量にもっている北西アメリカのイモリを食べるヘビのナトリウムチャンネルに、やはり耐性型の変異があることや、類似の機構で麻痺性貝毒を生産する赤潮が発生する地域に生息するオオノガイも麻痺性貝毒耐性型の変異を獲得することが、2005年にNature誌に連続して報告されました。これらの変異には進化過程が関わると考えられています。

フグ毒は、食中毒原因物質として恐れられますが、化学的にも生命科学としても多くの魅力を秘めた分子です。フグ毒を生産し、フグに供給する微生物を追求し、フグ毒最大の謎である“フグ毒はどんな分子から生合成されるのか”という難問に挑戦したいと考えています。

(やました まり)

平成 20 年度東北大学附属図書館・宮城県図書館合同企画展

「はっぴいさんぽうー和算の世界へようこそー」から

(3) ふれてみよう！和算家の人生

北青葉山分館整理・運用係 佐々木 智 穂

はじめに

平成 20 年度企画展「はっぴいさんぽうー和算の世界へようこそー」を巡る話題の第 3 回目は、第 3 部「ふれてみよう！和算家の人生」の内容についてご紹介します。

17 世紀後半に関孝和により体系化された和算は、江戸時代を通じて大きく花開きます。江戸や上方では様々な流派の算家が技を競い合い、その成果は遥か遠く^{みちのく}陸奥・仙台の地までもたらされました。和算が同時代の西洋数学に引けを取らないレベルまで達していたのも、ただ己の知的好奇心を糧に、数の世界を楽しんだ多くの人びとがいたからこそでしょう。

本連載の最終回となる今回は、そんな和算家たちの残した書を通じ、その生き様にふれていきます。

1. 関孝和とその後継者

①算聖・関孝和

人びとが「数」への関心を高めつつあった江戸時代の前期、和算界に颯爽と登場したのが関孝和^{せきたかかず} (1640 頃～1708) です。



関孝和『発微算法』

関は従来の「天元術」(算木を使って解く方法)に代わる「演段術」(筆算で解く方法。「傍書法」^{てんげん}「点竄術」^{じゆつ})ともを編み出し、和算を方法論的に大きく革新

します。この方法により、72 次といった高次の多元連立方程式の解を求めることが可能になりました。

その上で関は、ホーナー法に相当する数字係数方程式や、行列式による連立方程式の解法、ベルヌーイ数に相当する分数列、ニュートンの補間公式に相当するものなど、数多くの重要な発見を行っています。

これらの業績から「算聖」とも称される関ですが、生前に出版された和算書は、『^{はつ び さんぽう}発微算法』のわずか 1 冊のみ。関がいつ頃どのように研究を行っていたかについて、詳しいことはよく分かっていません。孝和の没後に関家が断絶し、詳細な記録が残らなかったこともあり、その生涯は謎に包まれています。



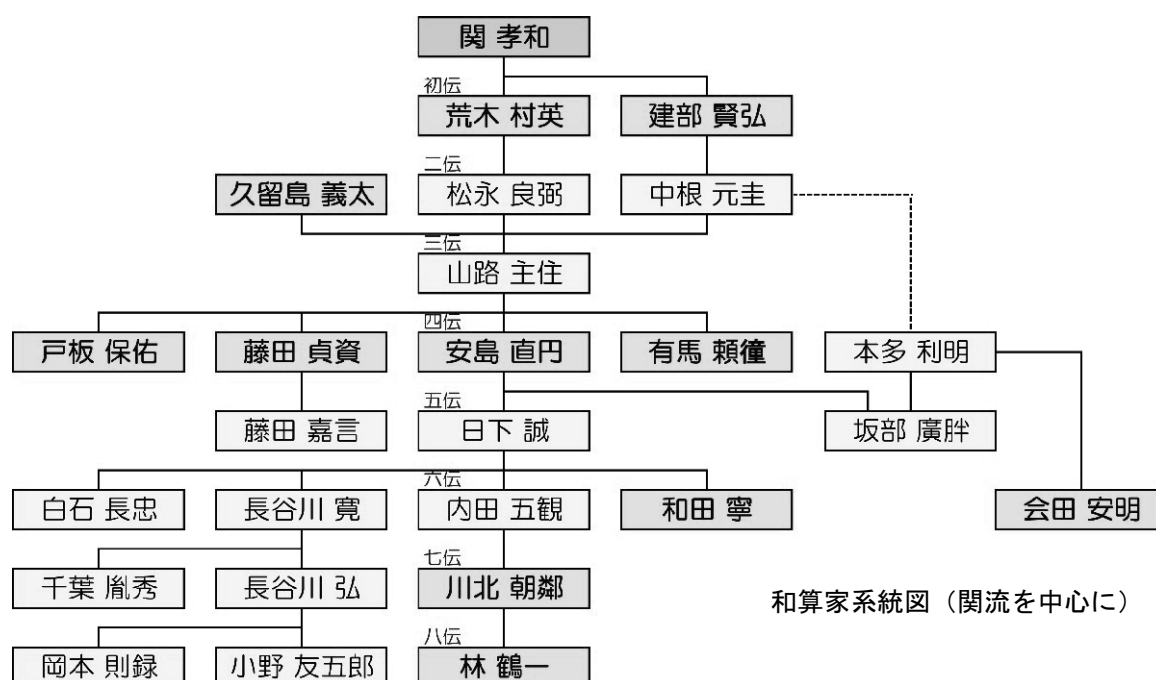
関孝和肖像
(『古説記』より)

②「関流」の和算家たち

関が残した業績は、その後継者たちによって受け継がれ、発展します。

関の没後、高弟の^{あら き むらひで}荒木村英 (1640～1713) は、関の遺稿をまとめ『^{かつようさんぽう}括要算法』を出版しました。

同じく高弟の^{たけ べ かたひろ}建部賢弘 (1664～1739) は、難解であった『^{はつ び さんぽう}発微算法』の解説書である『^{えんだんげんかい}演段診解』を著し、多元連立方程式の解法としての演段術を世に示しました。また建部は、日本初の円周率を表す公式「円理」を発見し、著書『^{てつ じゆつさんけい}綴術算経』の中で述べています。



和算家系統図 (関流を中心に)

山路主住(1704～1772)は、後述する有馬頼僮、藤田貞資、戸板保佑といった後進を育てるとともに、「見題」「隠題」「伏題」「別伝」「印可」の五段階からなる免許制を確立しました。この頃から関孝和に連なる流派としての「関流」の言葉が使われはじめます。

久留米藩 21 万石の大名で和算家でもあった有馬頼僮(1714～1783)は、関流和算の主要な成果をまとめた『拾璣算法』を出版し、それまで秘伝とされていた「点竄術」や「円理」を初めて公にしました。

藤田貞資(1734～1807)は有馬に仕え、『括要算法』や『拾璣算法』などの関流数学の内容を分かりやすく解説した『精要算法』を著しています。この中で藤田は、当時の算書の難問主義を「無用ノ無用」と批判し、実用の助けともなる「無用ノ用」「用ノ用」としての和算を取り上げています。

こうして「関流」は、江戸時代を通じ和算の最大流派となっていきました。

③関流算術の編纂者・戸板保佑

仙台藩の天文学者として名高い戸板保佑(1708

～1784)は、中西流算術を青木長由に、天文学を遠藤盛俊に学びました。その後戸板は、宝暦改暦の事業のため仙台から京へ赴き、同じく改暦事業に参加していた幕府天文方の山路主住と出会います。ここで山路に師事し、関流の算術を学んだ戸板は、後に『関算四伝書』の編纂を行いました。

この『関算四伝書』は、関孝和以降の関流算術の集大成ともいえる叢書です。関流和算家たちの著作や、戸板自らが著した算書、中国の算書などが所収されており、「関算前伝」「関算後伝」「関算要伝」「関算完伝」の4区分からなります。全511冊からなり、このうち507冊が宮城県図書館伊達文庫に現存しています。



戸板保佑『関算四伝書』
(宮城県図書館蔵 宮城県有形文化財指定)

2. 流派の形成

関孝和によって格段の進歩を遂げた日本の数学界には、古くから伝わる流派、及び関流に加え、様々な流派が生まれてきました。そしてそれら流派の中には他の流派に論争をしかける者も現れ、日本の数学にさらなる発展を促していくこととなります。

①「最上流」の開祖・会田安明

山形七日町に生まれた会田安明^{あいだ やすあき}（1747～1817）は、故郷で算術を学んだのち、日本一の数学者を志し、江戸に上りました。当初は生活の資を得るため、幕府の御普請役をつとめました。天明 7 年（1787）41 歳の時、将軍の交代にともな



会田安明肖像
（『数学大原』より）

職を失います。その後は数学の研究と教育に専念し、和算の流派の 1 つ「最上流」^{さいじょうりゅう}を立ち上げ、71 歳で没するまでの間に 2 千冊以上もの著書を残しています。

②関流 vs 最上流

会田安明は当初、関流の藤田貞資に入門を希望しましたが、弟子入りの条件として会田が江戸・芝愛宕山に掲げた算額の訂正を示されました。このことがきっかけとなり、会田は関流に対し対抗意識を持つようになったといえます。

後に最上流を立ち上げた会田は、藤田の『精要算法』の内容にも誤りがあるとし、それを指摘した『改精算法』^{かいせいさんぽう}を刊行しました。以来 17 年間にわたり、14 もの算書を通じて関流と最上流の間で激しい論戦が繰り広げられることとなります。

3. 藩校・養賢堂と仙台藩の和算

元文元年（1736）、仙台藩に学問所が設置され、安永元年（1772）に「養賢堂」^{ようけんどう}と改称しました。養賢堂における教育は、文武両道を修めさせることを目的としていました。特筆すべきは、算法も



養賢堂の様子
（『養賢堂諸生鑑』より 宮城県図書館蔵）

正式な科目として教授されていたことです。

養賢堂では、生徒のための教科書類も出版していました。出版された書物（「養賢堂板」という）は、後に城下の書肆^{しよし}（＝本の出版や販売をする店）も許可を得て刊行・販売しました。

また、養賢堂では、安永 8 年（1779）に書庫を設けて以来、多くの書物を収蔵していました。養賢堂の書籍を調査した際に記録された『養賢堂蔵書目録』によると、蔵書数は 1 万 5 千冊余に上ります。明治維新後の散逸、第二次世界大戦の戦火による焼失などを経て、蔵書の大半を失いましたが、現在は 196 部 727 冊の和書と、67 部 1008 冊の漢籍が、養賢堂文庫として宮城県図書館に伝えられています。これらの蔵書のうち、約 7 割を和算書が占めています。

4. 和算家列伝

和算の隆盛とともに様々な研究家が登場しました。和算以外にも才能を発揮する和算家。学問的な才能に恵まれながらも生活の苦しかった和算家。また中には各地を旅して算術指導したり、その地の和算家と知識を交換したりする「遊歴算家」^{ゆれきさん}と称される研究家も現れました。



和算家の番付表
 (『古今名人算者鑑』)

①奇矯の和算家・久留島義太

久留島義太(く りしまよしひろ) (?~1757) は、露店で買ったごく基本的な数学書を読んだだけで数学の根本をつかんでしまった、というほどの、まさに天才でした。また、生涯まとまった著作を残さず、仮にまとめた草稿も、引っ越しの荷造りの際に「つづら」に貼ってしまうような、名利に無頓着な人物でもありました。囲碁・将棋にも才能のひらめきを見せ、長く書写本で愛好家内に伝えられてきた、詰め将棋の著述もあります。

②旅する和算家—遊歴算家たち

現代ほど情報収集が容易ではなく、交通の便も悪かった江戸期において、地方に住んで和算研究を志す人々にとって、和算を教授してくれる人物を求める思いは切なるものでありました。そのような少数ですが熱烈な要望に応え、各地を渡り歩いた和算研究家が、後の世に「遊歴算家」と呼ばれた人々でした。彼らの目的は教授に限られたわけではなく、数学道場破りのようなことや、意見の交換などもしていたと伝えられています。

遊歴算家の存在は複数確認されていますが、今

回の展示では、当時においては珍しく全国を渡り歩いた山口和(やまぐちやわら) (?~1850)、法道寺善(ほうどう じよし) (1820~1868)、福島出身の佐久間續(さく まつづき) (1819~1895)、および関東を主に廻った剣持章行(けんもちあきゆき) (1790~1871) の著作を紹介しました。

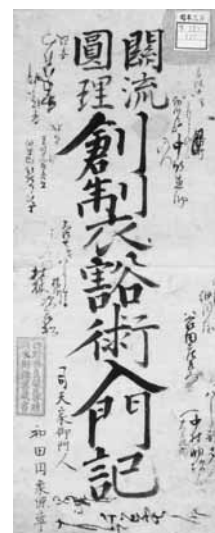
『山口氏廻国算法道行』は山口が師に送った書簡をまとめたものです。旅先で仙台から来た算家の噂を聞いた話が見えます。佐久間は最上流の和算家で、東北のみならず九州まで算術修行の旅をしました。

法道寺善は、東北から九州まで、日本中を遊歴しました。旅には本を持たずに出かけ、記憶によって複雑な数学の表をすらすら書くといった、大変な記憶力の持ち主でした。刊行された著書はなく、滞留した地で書き残し、弟子に伝授しました。

剣持章行は、主に関東地方を遊歴し算法を教授しました。遊歴は正月末から2月頃に始まり、11月~12月に教授で稼いだお金を持って帰る、ほぼ1年をかけたものでした。

③和算の到達点・和田寧

関流五伝(くしかまこと)の門弟中、円理において独自の成果をおさめ最も傑出していたとされるのが和田寧(わだ やすし) (1787~1840) です。和田の門人帳により、すでに一家をなしていた同じ日下門の内田五観(うちだいつみ)、白石長忠(しらいしながただ)、長谷川寛(はせがわひろし)らが教えを受けていたことがわかります。なお、この門人帳



和田寧の門人帳
 (『創製算術入門記』)

には手習、易等のために入門した人々の名前も記されており、和田が数学以外に寺子屋のような指導をしていた、ということもうかがわれます。

④「最後の和算家」・熊谷藤吉

熊谷藤吉は、明治6年(1873)に現在の宮城県気仙沼市に生まれ、昭和22年(1947)に没するまでその地で暮らしました。及川松庵、その門人・高城十代治に師事し、免許を得た後は師に就かず独学で研究を行いました。毎年農閑期に近郷の和算家たちと行き来し、毎日夜まで数学の問題について談義しあい、未解決の問題が残れば次の農閑期にまた議論することを約束して別れる、という研究生活でした。これが一般的な和算家の生活例ともいえるようです。

5. ふたつの『算法少女』

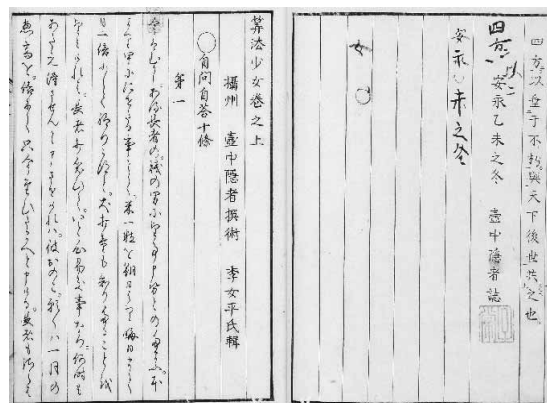
展示の締めくくりには、『算法少女』という不思議なタイトルの和算書と、そこから生まれたもうひとつの物語について、取り上げました。

18世紀後半の江戸で出版された『算法少女』は、「壺中隠者」と称する和算家と、その娘(「章子」の印あり)とにより編まれた書で、明治より前に女性が関わった唯一の算書として知られています。楷書の漢文(父)と、変体がなを交えた美しい和文(娘)とで構成されており、跋文は俳人の谷素外(1717~1809)によって書かれました。著者の壺中隠者については、会田安明により、千葉桃三という医家であることが明らかにされています。関流の藤田貞資は『算法少女之評』の中で、『算法少女』の内容を手厳しく批評していますが、これに対し会田安明は『算法約術三條之題』の中で弁護しています。

児童文学作家の遠藤寛子氏は、少女時代に父親からこの本の話聞き、その愛らしい題に魅せられました。やがて大人になった遠藤氏は、この『算法少女』と対面しますが、読み解いていく中で、もうひとつの『算法少女』の物語が生まれていきました。

ふたつの『算法少女』の関係性や、遠藤氏の物語の内容については、現在ちくま学芸文庫で容易に入手することが可能ですので、詳しくはそちら

をお読みいただければと思います。



壺中隠者『算法少女』



遠藤寛子『算法少女』

(ささき・ともお)

参考文献

- ・日本学士院日本科学史刊行会編『明治前日本数学史』岩波書店、1954・1960年
- ・平山諦『和算の歴史 その本質と発展』(ちくま学芸文庫)筑摩書房、2007年(原著は至文堂1961年刊)
- ・平山諦『学術を中心とした和算史上の人々』(ちくま学芸文庫)筑摩書房、2008年(原著は富士短期大学出版部1965年刊)
- ・平山諦『和算の誕生』恒星社厚生閣、1993年
- ・小川束・平野葉一『数学の歴史 和算と西洋数学の発展』(講座数学の考え方 24)朝倉書店、2003年
- ・熊谷慎一郎「仙台藩校養賢堂の和算書と洋学書—平成20年度特別展事業報告—」『叡智の杜』第6号、pp.59-77、宮城県図書館、2009年
<http://www.library.pref.miyagi.jp/publication/img/6.pdf> (閲覧日: 2009年6月19日)
- ・遠藤寛子『算法少女』(ちくま学芸文庫)筑摩書房、2006年(原著は岩崎書店1973年刊)

シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その1

探訪！医学分館

医学分館運用係

はじめにー医学分館って？

同じ東北大学といっても、なかなか他の学部のキャンパスって行く機会がないですよね？ そこで『木這子』では、今回から東北大学附属図書館の各分館・図書室を紹介いたします。第1回目の案内は医学分館です。

医学分館は、大正4年（1915）7月、東北帝国大学医科大学の開設にあわせ、医科分館として設置されました。その後、何度かの改称や組織の改変を経て、現在は医学・歯学関係にまたがる専門図書館として活動しています。大正5年の時点では1万冊にも満たなかった蔵書は、平成21年3月末日現在では、図書421,725冊（和漢書166,975冊、洋書254,750冊）、雑誌13,610種類（和雑誌4,658種類、8,952種類）となっています。

また、前野良沢・杉田玄白らが翻訳した『解体新書』（1774年）や、仙台藩の蘭学者であった大槻玄沢の書簡などをはじめとする江戸期の医学関係資料のほか、宮城県衛生研究所の創設者で初代所長を務めた青木大輔（1901～1967）が収集した「青木大輔コレクション」、フライブルグ大学やベルリン大学の薬理学教授として高名であったトレンドレンバーグ教授（Paul Trendelenburg 1884～1931）とその弟子クライヤー教授（Otto Kraye 1899～1982）に献呈された薬理学・生理学分野の論文別刷のコレクションである *Trendelenburg & Kraye's Collection of Scientific Papers* など、貴重なコレクションを所蔵しています。

現在の医学分館の建て物は、昭和59年（1984）1月に完成しました。濃いアイボリーのタイル張りで外装された3階建ての清楚な建物です。また、平成16年2月には2階建ての別棟を増築しています。

医学分館までは仙台駅から「大学病院」経由のバスでおよそ20分、地下鉄では「北四番町」で下車、そこから徒歩で約15分程度となります。



医学分館へは、附属病院を目標にお越しください



医学分館へは、附属病院正門を左手に向かいます、



医学分館外観。濃いアイボリーのタイル張りで外装された清楚な建物です



正面玄関

1. 1階－カウンターからパソコンコーナー、新着雑誌コーナー

正面玄関から入って右手にカウンター、正面奥には学生の皆さんが自由に使えるパソコンが約 20 台ほど設置されています。そのほか 1 階には、休憩のできるラウンジや新聞コーナー、新着雑誌コーナー、DVD などを視聴できるビデオコーナー、医学分館が所蔵する貴重な資料を公開している展示コーナーなどがあります。

白衣を着た先生や学生さんの利用の多いことが医学分館の特徴でしょうか。



入退館の際は、学生証・身分証・図書館利用証が必要です



1 階カウンター



ラウンジと新聞コーナー



パソコンコーナー。インターネットやオフィスソフトなどが利用できます



新着雑誌コーナー



ビデオコーナー



展示コーナー。『解体新書』など、医学分館が所蔵する貴重な資料などを随時展示しています



医学分館が所蔵する前野良沢・杉田玄白ら訳『解体新書』（1774年刊）

2. 2階—洋雑誌のバックナンバーと研究者閲覧室

2階には洋雑誌のバックナンバーと研究者閲覧室、研究個室などがあります。研究者閲覧室と研究個室は、星陵キャンパス所属の大学院生以上の方がご利用できます。



2階書架のようす。2階には洋雑誌のバックナンバーが並んでいます。日本では東北大学にしかない雑誌もあります



2階吹き抜けのようす



研究者閲覧室のようす



研究個室のようす

3. 3 階—一般図書と洋雑誌のバックナンバー、WHO（World Health Organization）刊行資料

3 階には 2 階に続き洋雑誌のバックナンバーのほか、一般図書、WHO が刊行する資料のほか、視聴覚室や特別閲覧室、貴重書資料室などがあります。



3 階辞書・事典コーナーと閲覧席



3 階には一般図書が並んでいます



3 階の書架のようす



3 階の閲覧席のようす



WHO 資料室



特別閲覧室。会議やゼミなどでもご利用いただけます



視聴覚室



貴重資料室。主に江戸時代の医学関連の資料が並んでいます

4. 別棟（西棟）－和雑誌のバックナンバーと閲覧室

別棟には、和雑誌のバックナンバーが配置されているほか、2 階は閲覧室としてご利用いただいております。利用者用パソコンを設置し、毎日、多くの学生さんが利用しています。



別棟 1 階の和雑誌バックナンバー



別棟 2 階の閲覧室

5. おわりに

医学分館の雰囲気が伝わりましたか？ 医学・生命科学関係の資料が必要な時は、ぜひご利用ください。

■医学分館について

<住所と連絡先>

◇住所

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 1-1

◇連絡先

医学分館カウンター TEL : 022-717-7978 / E-Mail : med-counter@library.tohoku.ac.jp

URL : <http://www.library.tohoku.ac.jp/med/>

<開館時間と休館日>

◇通常開館時間

- ・平日：9：00～20：00
- ・夏期休業期間（8/1～8/31）：9：00～17：00
- ・春期休業期間（3/1～3/31）：9：00～17：00

◇無人入退館時間（窓口業務休止）

この時間帯は、本学の教職員、星陵地区在籍の大学院生・学部学生のための入館となります。

- ・平日：20：00～24：00
- ・土曜日・日曜日：9：00～24：00
- ・祝祭日（振替休日を含む）：9：00～24：00
- ・本学学位記授与式の日：12：00～24：00
- ・その他

◇休館日

- ・年末・年始（12月28日～1月4日）
- ・臨時に休館する場合は、掲示・ホームページ等でお知らせします

<貸出・返却手続>

◇貸出

学生証、身分証、図書館利用証を資料に添えてカウンターへお持ちください。

身分	貸出冊数	貸出期間
教職員・大学院生	10冊まで	7日間
学生（雑誌の貸出はしない）	3冊まで	7日間
学外者（雑誌の貸出はしない）	2冊まで	7日間

※学内所属の方は、上記冊数のほか、搬送サービスにより、図書館本館、他分館から5冊まで借りることができます。

※貸出しない資料

- ・辞書、事典、参考図書、索引紙、貴重資料など
- ・新着コーナー（1階）にある雑誌

◇返却

カウンターにお返しください。窓口業務休止時は、ブックポストに入れてください。

<蔵書数・統計情報など>

◇蔵書数（平成21年3月末現在）

- ・図書：421,725冊（和漢書：166,975冊、洋書：254,750冊）
- ・雑誌：13,610種類（和雑誌：4,658種類、洋雑誌：8,952種類）

◇コレクション

- ・前野良沢・杉田玄白ら訳『解体新書』（1774年）、「大槻玄沢書簡」など江戸期の医学関係資料
- ・青木大輔コレクション
- ・Trendelenburg & Kraye's Collection of Scientific Papers、ほか

◇施設

- ・総延面積：4,476 m² ・閲覧席：431席

◇受入資料数（平成20年度）

- ・図書：4,030冊 ・雑誌：3,115種類

◇サービス（平成20年度）

- ・開館日数：354日
- ・入館者数：162,066人（うち、学外者：1,487人）
- ・貸出冊数：11,605冊
- ・文献複写（受付）：23,913件
- ・現物貸借（貸出）：36冊 ・現物借用（借用）：42冊

参考図書費により平成20年度に購入し、本館に配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。
(情報管理課)

◆ 主な継続受入資料 ◆

Book page 本の年鑑 2008 1-2
 会社四季報：2008年3,4集
 会社四季報：2009年1,2集
 会社職員録 全上場会社版 2009 上,下巻,付録
 会社職員録 非上場会社版 2008 上,下巻,付録
 官報総索引 2007
 近代雑誌目次文庫 社会学 第16-18巻
 現代用語の基礎知識 2009,別冊付録
 国語年鑑 2008年版
 国会便覧 2008/09 123,124
 雑誌新聞総かたろぐ2008年版
 出版年鑑 2008 1-2
 宗教年鑑 平成19年版
 人物文献目録 日本人編 2005-2007
 人物文献目録 外国人編 2005-2007
 世界国勢図会 2008/09
 世界年鑑 2008,2009
 全国学校総覧 2009
 大学ランキング 2009年版
 台湾総督府文書目録 第25巻
 中国年鑑 2008
 図書館年鑑 2008
 日本経済新聞 CD-ROM版 2007年版
 日本国勢図会 第66版 2008/09
 美術年鑑 平成21年版

ブリタニカ国際年鑑 2008年版
 読売年鑑 2009
 読売年鑑 2009 別冊 分野別人名録
 理科年表 第82冊 (2009)
 歴史学事典 15,総索引
 六法全書 平成21年版 1,2

Althochdeutsches Wörterbuch -- Akademie Bd.5 Lfg.12-14
 American reference books annual 39 (2008)
 Britannica book of the year 2008
 Dizionario biografico degli italiani. -- Istituto della
 Enciclopedia italiana 58,70-71
 The europa World Year Book 2008 vol.1-2
 The Europa world of learning 59th ed. 2009 1-2
 The International Who's who 2009
 Japan-Bibliografie Reihe B, Bd.2, T.2
 McGraw-Hill Yearbook of Science & Technology 2009
 The Statesman's year-book 2009
 Wer ist wer? : Das deutsche who's who Bd.47 2008/09
 Whitaker's Almanack 141th ed. 2009
 Who was who in America : with world motables
 2007-2008 Vol.19
 Who's who in france 2009 Vol.40
 The world almanac and book of facts 2009

* その他の主な受入資料 *

ゼンリンの住宅地図(宮城県) 青葉区,宮城野区,
 若林区,泉区,太白区 2008
 書誌年鑑 2000-2008
 年中行事大辞典
 辞書・事典全情報 90/97,1998-2005
 名簿・名鑑全情報 1990-2004
 昭和の讀賣新聞 for DVD Vol.9-14,戦後1索引,
 世界大百科事典(第2版)
 みやぎ地図百科
 展覧会カタログ総覧 1-2
 動物レファレンス事典
 魚類レファレンス事典
 昆虫レファレンス事典
 江戸時代語辞典
 心理学の本全情報 2003-2007
 年刊参考図書解説目録 2003-2007
 日本大地図帳 10訂特別版
 国際人権百科事典
 日本書画落款大事典 上,下巻
 新データガイド地球環境
 植物の漢字語源辞典
 図説日本の辞書

造本解剖図鑑
 笑いの日本語辞典
 地震・津波と火山の事典
 環境と健康の事典
 平安人名辞典 上,下
 医学ユーモア辞典
 西洋製本図鑑
 定本和の色事典
 近世書籍研究文献目録 増補改訂
 文化人類学事典
 現代語から古語を引く辞典
 ローダス21最新法律英語辞典
 勘違い敬語の辞典
 サプリメント事典 第2版
 情報教育事典
 元素大百科事典
 王朝文化辞典
 最新基本地図 2009
 会計学辞典 第5版
 日本の物語・お話絵本登場人物索引

Enciclopedia italiana di scienze, lettere ed arti 1-5+DVD

平成20年度特別図書購入報告書

特別図書購入費によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

(情報管理課)

番号	資 料 名	内 容	出版形態
1	近代日本キリスト教名著選集(第2期, 3期, 4期)	近代日本キリスト教関係の最重要文献を収録したもの。	図 書
2	中国蔵伝仏教雕塑全集 (全6巻)	チベット仏教美術の全体をとらえたコレクション。	図 書
3	敦煌經部文獻合集 (全11冊)	敦煌文献を伝統的の四部分類により整理編排した「敦煌文献合集」のうち、「教部」に相当する部分。各文献の定名、題解、録文、校勘を含み、巻末には敦煌教部文献巻号索引を付す。	図 書
4	日本植民地文学精選集:第1期 全20巻 (ゆまに書房)	戦前の「外地」における日本語文学作品を網羅した資料的価値の高い文献集	図 書
5	American Secondary Education. vol.1-10, 14-34. (アメリカ中等教育)	アメリカで刊行されている中等教育に関する総合的な学術雑誌であり、この分野の研究には不可欠の最重要雑誌の一つである。	雑 誌
6	Comparative Political Science. 4 vols. (Sage Library of Political Science) (比較政治学 全4巻)	本書は、古代ギリシャと現代社会、確立された民主主義と全体主義体制、小規模コミュニティと大都市、国際的尺度と個人など、様々な制度や構造、機能や過程、行動や文化における政治の中心問題を取り扱っている。あるゆる地域や時代の対象を、比較という手段によって客観的・科学的に分析・考察することにより、読者は比較政治学の多様な研究手法や実証研究の豊富な成果について包括的な理解を深めることができる。	図 書
7	Crusades : Critical Concepts in Historical Studies (十字軍)	十字軍史の基本的研究文献の集成。	図 書
8	Discourse Studies. 5 Vols. (Sage Pub.) (ディスコース研究 全5巻)	本シリーズは文法、文体、会話分析、物語分析、討論などに関するディスコース研究を網羅するコレクションであり、著名な研究者による古典的著作をはじめ、多様な論争を盛り込んだ論文を収録している。	図 書
9	Early English Books. STC2. Unit 133,134. (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
10	Environmental Policy. 4 vols. (Routledge) (環境政策 全4巻)	現代社会は、地球温暖化、砂漠化、廃棄物問題など、様々な環境問題に直面しており、その解決が急がれている。本書において環境政策は、「環境資本と環境サービスの管理に関する政策決定に利用される、一連の原則及び意志」と定義され、環境哲学と環境政治を始めとする科学・社会科学分野の概念に依拠しており、その問題解決志向に特徴がある。	図 書
11	Mergent industrial manual. 2001. 2 vols. (Mergent) (米国企業年鑑)	米国証券市場に上場されている、世界のトップ企業1,800社を収録。記載内容はきわめて詳細。	図 書
12	Parliamentary Debates (Hansard). House of Lords 5th ser., Vols. 696-703 (英国議会上院議事録) House of Commons 6th ser., Vols. 452,462(1)-476 (英国議会下院議事録)	英国議会上院及び下院における会期毎の議事録及び議事全体について、議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図 書
13	Partei und Staat in der DDR: Teil3/4:Die Protokolle der Politbueros 1971-1980 (K.G.Saur) (ドイツ民主共和国における党と国家:第3部第4集 1971-1980政治局プロトコール)	東独の支配政党であったSED(社会主義統一党)中央委員会政治局の1971~1980年会議議事録集(元機密資料の写真撮影)。東独の社会政治経済の実態および東西関係、東側内部の関係の究明のための必須資料。	マイクロフィッシュ
14	A Treatise of Legal Philosophy and General Jurisprudence. Vol.1-8. (法哲学・一般法学論文集 全8巻)	法哲学と一般法理学の諸問題を、理論及び歴史的視座の両面から網羅的に論ずることを企画した全12巻の論文集で、現在1-8巻が刊行されている。1-5巻は、現代的論争の主要テーマを網羅する理論編、6-8巻は古代ギリシャから19世紀までの法思想の発展を扱う歴史編で、法哲学、実践哲学、法律家、法学研究者にとって必携の基本レファレンスである。なお、9-12巻は20世紀の歴史編及び索引である。	図 書

平成 21 年度新入生向け図書館オリエンテーション等の開催

情報サービス課 参考調査係

川内地区学部・研究科新入生オリエンテーションにおける図書館ガイダンスと図書館オリエンテーションを開催した。

図書館ガイダンスは、川内地区の学部・研究科（文・教・法・経・国際・教情）が行う新入生オリエンテーションに当館職員が参加して、図書館概要の説明と図書館オリエンテーションへの参加を呼びかける内容で、6 会場、約 880 名に対し実施された。

説明者と補助者として情報サービス課の職員 2 名をオリエンテーション会場に派遣し、約 10 分間程度図書館と新入生オリエンテーションの紹介を行った。各会場では、図書館利用案内と『情報探索の基礎知識 2009』を全新生に配布し、広報を行った。留学生向けには英語版の『基礎知識』も配布した。

特に、教育学部では、毎年オリエンテ

ーションの時間を 1 時間取り、図書館内会場でガイダンスを行っている。図書館利用方法の紹介のみならず、大学での学術研究と図書館、教育学部生に呼んで欲しい資料というテーマで担当者が説明を行った。

図書館オリエンテーションは 4 月 6、9、10、13、14 日の 5 日間行い、325 名の参加者があった。内容はパワーポイントによる図書館概要の説明（20 分程度）と図書館ツアー（40 分程度）である。図書館ツアーでは、通常新生は入れない書庫内見学も行った。同じ見学コースでありながら、引率者各自の経験が生かされたグループごとにユニークなツアーとなった。

終わりに、この紙面を借りてご協力いただいた館員各位に、お礼を申し上げる。

『東北大学生のための情報探索の基礎知識』

基本編 2009、英語版 2009 を刊行

総務課 情報企画係

附属図書館で作成し、全学部の新入生へ毎年配布している情報探索マニュアル本『東北大学生のための情報探索の基礎知識：基本編』の 2009 年版を今年 3 月に刊行いたしました。また、英語版『Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University: Natural Science 2009』も同月に刊行し、新入留学生へ配布しています。なおこれらは新入生だけではなくどなたでも入手可能です。ご希望の方へは附属図書館各カウンターでお渡ししているほか、図書館ホームページからお申込みいただければ配送も可能です。さらに PDF 版もウェブサイトで

公開していますので、お好みの方法で入手のうえ是非ご活用していただけますと幸いです。

◇URL：

<http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/2009/>



平成 21 年度目録システム地域講習会（図書コース）開催

情報管理課 図書情報係

5月27日から5月29日までの3日間、附属図書館において「目録システム地域講習会（図書コース）」を開催しました。この講習会の目的は、目録業務担当の図書館職員が、日常業務において共通理解しておくべき総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方（入力基準）を修得するもので、東北地区の大学から18名の受講者がありました。

受講者は、セルフラーニング教材による事前学習と修得テスト合格が、義務付けられています。当日までに全員クリアし、講習会に臨みました。

この事前学習の成果として、講師・講師補助者からは、目録業務の経験の浅い方が多かったものの理解度は高く感じられたという声があがりました。受講生アンケー

トからも、事前に学習することで基礎知識が得られたこと、事前学習でわからなかったことを講習会で理解できたこと、実習によって事前学習と講義で学んだことを総合的に体得できたことなど、よかったという感想が多数ありました。

講師は学内の講師経験者のほか、国立情報学研究所から派遣されたNPO職員の高野氏を迎えました。高野氏の長年の経験を基にされた軽快な講義は、受講生にとってわかりやすいだけでなく、講師・講師補助者のモデルとしても改めて勉強させていただく良い機会となりました。受講生からも講師・講師補助者の適切な講義の進め方や質問しやすい雰囲気を評価いただきました。最終日には全員が修了証を手にして3日間を無事終了しました。



平成 21 年度目録システム講習会（図書コース）を受講して

工学分館整理・運用係 小笠原 典子

平成 21 年 5 月 27 日から 29 日の 3 日間、国立情報学研究所と東北大学附属図書館の共催により開催された目録システム地域講習会（図書コース）を受講する機会を得ました。この講習会には東北地区の国公立大学から、計 18 名の参加がありました。

私は、新規採用で 4 月から目録業務の担当となり、周囲の方々に一から教えていただく中でようやくぼんやりと業務内容が見えてきた頃の受講となりました。講習会を終え、改めてこの時期での受講が有益であると感じました。それは、少し実務を経験していたことで講義の内容が理解しやすく、意欲的に取り組むことができたからです。それまで漠然と把握していたことがはっきりと分かるにつれ、目録業務にさらに面白みを感じるようになりました。

3 日間の講習会は、目録検索、所蔵登録、書誌の作成・修正・削除など、一通りの目録業務について講義と演習を交えて進められました。事前学習により、総合目録データベースの構成やデータ登録に関する考え方などのベースが頭に入っていたことで、講義内容もスムーズに耳に入り、とても有意義な時間を持つことが出来たと思います。特に、練習問題を使つての演習や一日のまとめのセルフチェックテストは、自分がどこまで理解しているかを確かめることができ、有益でした。

この講習会を通して、私が一番に感じたのは、検索、書誌作成、何においても細部にまで意識を向けなければならないということでした。目録業務で怖いことは、知識・技術の

未熟さはもちろんですが、意識が不十分のままに「多分これで大丈夫だろう」と何となく作業を進めてしまうことです。

目録システムでは参加組織によるオンライン共同分担入力方式を取ることで、効率的に目録作業を行うことが出来ます。しかし、その一方で書誌修正や重複書誌などが絶えません。私は練習問題に取り組んでいるときに、何度か補助の方に記入漏れや記入間違いを指摘されましたが、言われるまでは全く気付きませんでした。自分で答え合わせをしたつもりが見逃していた点もありました。不十分な検索で、書誌がないと判断してしまう。記入すべき事項があるのに、そのことを知らずに書誌を作成してしまう。これらは、総合目録データベースの品質維持に対しての大きな不安要素となります。最終日には品質管理の重要性を教えていただき、目録担当者として意識すべきことを学びました。見逃していることはないか、目録規則やマニュアルなど基準となるものをきちんと確認した上で判断するようにしていきたいと強く思いました。

また、今回の講習会では、他大学の方々と交流できたことにも参加した意義があったと思います。目録業務というと情報の塊、パソコンとの一対一の構図などを思い浮かべてしまいがちですが、その全体を支えているのは人です。その人同士が実際に顔を合わせてつながりをもつことが出来るというのは、目録データベースの品質維持にもよい影響を与えるのではないのでしょうか。

3 日間の講習会を終え、やっとスタート

というのは、目録データベースの品質維持にもよい影響を与えるのではないのでしょうか。

3日間の講習会を終え、やっとスタートラインに立てたという状態ですが、自分が担当している目録業務に対する意識は高まり、準備体操は入念に出来たと思います。これから、知識・技術・意識をより高めて

一人前と認めていただけるよう精進したいと思います。

最後になりましたが、講師・補助の方々、並びにこのような機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(おがさわら のりこ)

職員研修『研修・出張報告会』，『新人研修』を開催

総務課 情報企画係

平成21年5月13日（水）に平成21年度第1回「研修・出張報告会」を開催いたしました。この報告会は、外部で行われている研修会や調査出張などで得た知見を報告することで図書館職員の問題意識を高めるとともに、職員がプレゼンテーション技能を身につけることを目的としています。今回は延べ7名の職員が発表し、38名の職員が聴講して活発な意見交換が行われました。内容は以下の通りです。

1. 『第10回図書館総合展出張報告』

- 1) 菅原透（総務課情報企画係）
- 2) 藤澤こず江（情報管理課受入係）
- 3) 代田有紗（情報サービス課参考調査係）

2. 『ラーニングコモンズフォーラム参加報告』

- 1) 吉植庄栄（電気通信研究所図書係）

3. 『米国大学図書館出張報告』

- 1) 代田有紗（情報サービス課参考調査係）
- 2) 小飯塚猛（金属材料研究所図書係）
- 3) 半澤智絵（工学分館整理運用係）

また平成21年5月15日（金）には、附属図書館に新しく配属された職員を対象として「図書館新人研修」を開催いたしました。この研修は本館の部長や課長、各係長が講師となり、本館の業務を例に図書館全体の業務を紹介する内容です。参加者は新規採用の方はもちろん、学内の別の部署から異動した職員も対象として計9名の参加がありました。参加者の感想からは『図書館の仕事がかくも多方面にわたることを再認識した』、『図書館という大きな組織の中で自分が担当している仕事の位置づけがわかりよかった』などといった声とともに『他の係と協力して業務を進められるよう心がけたい』など前向きな感想が多く聞かれ、図書館新人にとって有意義な研修となりました。



附属図書館商議会商議員名簿

平成21年 4 月 1 日現在

所 属	氏 名	任 期	備 考
図書館長	野 家 啓 一	職指定 (H20. 4. 1 ～ H22. 3. 31)	
図書館副館長	倉 本 義 夫	〃 (H17. 10. 1 ～ H21. 9. 30)	
医学分館長	柳 澤 輝 行	〃 (H19. 12. 1 ～ H22. 3. 31)	再任
北青葉山分館長	佐 藤 春 夫	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
工学分館長	吉 野 博	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
農学分館長	山 下 ま り	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
サイバーサイエンスセンター長	小 林 広 明	〃 (H20. 4. 1 ～ H22. 3. 31)	*20.4.1組織変更
副学長 (総務担当)	北 村 幸 久	〃 (H20. 4. 1 ～ H22. 3. 31)	
文学研究科教授	小 野 善 彦	20. 4. 1 ～ 23. 3. 31	再任
教育学研究科教授	生 田 久美子	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
法学研究科教授	吉 原 和 志	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
経済学研究科教授	猿 渡 啓 子	20. 4. 1 ～ 23. 3. 31	再任
理学研究科教授	藤 巻 宏 和	21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	* 前任者の残任期間
医学系研究科教授	根 東 義 明	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
歯学研究科教授	山 本 照 子	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
薬学研究科教授	大 島 吉 輝	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
工学研究科教授	山 田 博 仁	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
農学研究科教授	加 藤 和 雄	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
国際文化研究科教授	鈴木 美津子	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
情報科学研究科教授	福 地 肇	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
生命科学研究科教授	東 谷 篤 志	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
環境科学研究科教授	星 野 仁	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
医工学研究科教授	松 木 英 敏	21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	* 前任者の残任期間
教育情報学研究部教授	村 木 英 治	14. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
金属材料研究所教授	米 永 一 郎	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
加齢医学研究所教授	小 椋 利 彦	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
流体科学研究所教授	中 野 政 身	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
電気通信研究所教授	外 山 芳 人	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
多元物質科学研究所教授	佐 藤 俊 一	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
東北ゾア研究センター教授	栗 林 均	20. 4. 1 ～ 22. 3. 31	
高等教育開発推進センター教授	羽 田 貴 史	21. 1. 1 ～ 23. 3. 31	
原子分子材料科学高等研究機構准教授	竹 内 章	20. 4. 1 ～	オブザーバー出席

会 議

21.4.14 平成21年度第1回附属図書館運営会議

■協議事項

- 1.平成21年度附属図書館会議等年間計画について
- 2.運営会議の当面の検討事項（案）について
- 3.「平成20年度計画実施状況」の修正及び進捗状況の自己評価について
- 4.3館構想及び事務一元化について
- 5.その他

■報告事項

- 1.平成21年度商議員について
- 2.井上プラン2007（2009年度改訂版について）
- 3.平成22年度概算要求について
- 4.平成21年度総長裁量経費について
- 5.その他

21.5.25 平成21年度第2回附属図書館運営会議

■協議事項

- 1.商議員の追加について
- 2.副館長選考委員会について
- 3.附属図書館の中期目標・中期計画について
- 4.平成21年度附属図書館関連委員会構成（案）について
- 5.平成21年度附属図書館予算（案）について
- 6.平成21年度図書館資料費配分(案)について
- 7.第二期中期目標・中期計画（素案）（第二次案）について
- 8.3館構想及び事務一元化について
- 9.その他

■報告事項

- 1.学外諸会議について
 - ・第40回国立大学図書館協会東北地区協会総会について
 - ・国立大学図書館協会理事会について
 - ・平成21年度外国雑誌センター館会議について
- 2.平成21年度第1回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会(合同会議)について
- 3.平成21年度附属図書館事業報告について

4.その他

- ・大学図書館ランキング

21.6.25 平成21年度第3回附属図書館運営会議

■協議事項

- 1.3館構想及び事務一元化について
- 2.その他

■報告事項

- 1.第56回国立大学図書館協会総会について
- 2.平成21年度第1回齋藤養之助家史料受入・整理検討委員会について
- 3.平成21年度第1回貴重図書等委員会について
- 4.平成21年度第1回川内地区図書委員会について
- 5.TOUR（東北大学機関リポジトリ）について
- 6.その他

21.4.30 平成21年度第1回附属図書館商議会

■協議事項

- 1.平成21年度附属図書館会議等年間計画について
- 2.商議会の当面の検討事項について
- 3.「平成20年度計画状況」の修正及び進捗状況の自己評価について
- 4.3館構想及び事務一元化について
- 5.その他

■報告事項

- 1.井上プラン2007（2009年度改訂版について）
- 2.平成22年度概算要求について
- 3.平成21年度総長裁量経費要求について
- 4.附属図書館本館の開館時間延長の試行について
- 5.附属図書館ホームページの更新について
- 6.その他



21.6.4 平成21年度第2回附属図書館商議会

■協議事項

- 1.附属図書館規程の一部改正について

- 2.副館長選考委員会について
- 3.附属図書館の中期目標・中期計画について
- 4.第二期中期目標・中期計画に(素案)(第二次案)について
- 5.3 館構想及び事務一元化について
- 6.その他

■報告事項

- 1.平成21年度附属図書館関連委員会構成について
- 2.学外諸会議について
 - ・第40回国立大学図書館協会東北地区協会総会について

- ・国立大学図書館協会理事会について
- ・平成21年度外国雑誌センター館会議について
- 3.平成21年度第1回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会(合同会議)について
- 4.平成21年度附属図書館予算(案)について
- 5.平成21年度図書館資料配分(案)について
- 6.平成21年度附属図書館事業報告について
- 7.その他
 - ・大学図書館ランキング
- 8.附属図書館ホームページの更新について
- 9.その他



人 事 異 動

平成21年6月30日現在

発令年月日	新 職	氏名	旧 職	備考
21. 3.31		高木 泉	北青葉山分館長	任期満了
"		阿曾弘具	工学分館長	"
"		池上正人	農学分館長	"
"		菊地裕子	准職員(工学分館管理係)	"
"		早坂幸子	事務補佐員(電気通信研究所総務課図書係)	"
21 .4. 1	医学分館長	柳澤輝行	医学分館長	再任
"	北青葉山分館長	佐藤春夫		併任
"	工学分館長	吉野 博		"
"	農学分館長	山下まり		"
"	附属図書館事務部長	片山俊治	大阪大学附属図書館利用支援課長	採用
"	" 情報管理課長	横山敏秋	附属図書館情報サービス課長	配置換
"	" 情報サービス課長	小陳左和子	国立情報学研究所学生基盤推進部基盤企画課副課長	採用
"	" 情報管理課受入係長	村上康子	電気通信研究所総務課図書係長	配置換
"	電気通信研究所総務課図書係長	吉植庄栄	工学分館管理係	昇任
"	工学部・工学研究科研究協力室研究教育係長	鈴木啓一	医学分館総務係長	配置換
"	医学分館総務係長	村上亜矢子	経済学部・経済学研究科庶務係主任	昇任
"	宮城教育大学附属図書館サービス専門職	福井ひとみ	情報サービス課相互利用係	"

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備考
21.4.1	医学部・医学研究科総務室人事係	高橋雄一	総務課庶務係	配置換
〃	総務課庶務係	菊地晋哉	薬学部・薬学研究科庶務係	〃
〃	情報サービス課参考調査係	代田有紗	情報サービス課閲覧第一係	〃
〃	情報サービス課閲覧第一係	藤野曜子	工学分館整理・運用係准職員	採用
〃	医学分館運用係	木戸浦豊和	総務課情報企画係	配置換
〃	工学分館管理係	永井 伸	医学分館運用係	〃
〃	〃 整理・運用係	小笠原典子		採用
〃	農学分館図書係	加藤亜紀		〃
〃	経済学部・経済学研究科図書室	渡部知美	農学分館図書係	配置換
〃	再雇用職員(総務課)	菊地房雄		継続
〃	〃	阿部佳市		〃
〃	〃	佐々木勝義		〃
〃	〃 (情報管理課)	富田小満子		〃
〃	〃	佐藤優美子		再雇用
〃	〃 (情報サービス課)	嶺岸文男		〃
〃	事務補佐員 (情報管理図書情報係)	佐藤公子	事務補佐員(情報サービス課閲覧第二係)	配置換
〃	〃 (情報サービス課閲覧第一係)	高橋八千代	〃 (情報管理課図書情報係)	〃
〃	〃 (情報サービス課閲覧第二係)	星 けい子	〃 (情報サービス課閲覧第一係)	〃
〃	〃 (医学分館整理係)	星 晴美	〃 (加齢医学研究所図書室)	採用
〃	〃 准職員(工学分館管理係)	阿部ユカ	〃 (医学分館整理係)	〃
〃	〃 〃 (工学分館整理・運用係)	菊池真琴	〃 (宮城教育大学附属図書館)	〃
〃	〃 (金属材料研究所総務課図書係)	星 慈		〃
〃	〃 (電気通信研究所総務課図書係)	鈴木香代子		〃
〃	〃 (経済学部・経済学研究科図書室)	千葉景子	事務補佐員 (金属材料研究所総務課図書係)	〃
6.1	〃 (多元物質研究所総務課)	砂金静枝	〃 (多元物質研究所図書室)	配置換
〃	〃 (多元物質研究所図書室)	横山真理子	〃 (〃 総務課)	〃



編 集 後 記

新入生の皆さん、新しく東北大学へ赴任していらっしゃる教職員の皆様、東北大学附属図書館へようこそ。今年度第1号の東北大学附属図書館報「木這子(きぼこ)」はいかがでしたか。

今年度の附属図書館は、新分館長3人の先生方をお迎えしてスタートいたしました。誌面のあちらこちらに見られるキャラクターは、平成23年度に創設百周年を迎える附属図書館の百周年記念事業の一環として公募し決定したイメージキャラクターです。東北大学のロゴマークに使用されている「萩」をモチーフにしたものです。附属図書館ともども、どうぞよろしくお願いいたします。

附属図書館本館の正面玄関を入っていただいて左側のスペースでは、常設展示を行っております。あるテーマごとに、附属図書館が誇る貴重な資料をご覧いただけるコーナーとなっております。また、秋には恒例の企画展も開催されます。学習や研究はもちろんのことですが、気分転換や友人との憩いの場としてもどうぞご利用ください。

東北大学附属図書館は、皆様の実りあるキャンパスライフをサポートさせていただきます。

Q： 本号にイメージキャラクターはいくつ出てきたでしょうか？（答えは最終ページで）



答えは
9つ！



東北大学附属図書館報「木這子」 第34巻第1号（通巻126号）発行日 平成21年6月30日

発行人 片山 俊治 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

電話 022-795-5911 FAX 022-795-5909

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>